中国語の三つの比較級構文

——“比”構文、“有”構文、“于”構文——*

伊　藤　さとみ

1. はじめに

中国語において比較を表す表現の研究は、これまでにも多くなされており、近年では、许国萍 2007、刘焱 2004 などの著書、刘丹青 2003 を始めとする一連の方言や少数民族言語における比較の表現の差異を記述したもの、黄晓惠 1992、张国光 1998、史佩信等 2006 など歴史的変遷を明らかにした研究などがある。本稿では、特に表題にあげた三種類の比較級構文を取り上げて考察する。この三つは意味的及び統語的、特に否定や数量表現との共起関係において面白い対照をなしており、それぞれ使用頻度や使われる文体に違いがあるものの、対照的な研究として成果を上げることができるからである。“比”構文、“有”構文、“于”構文とは、それぞれ、介詞“比”を使って比較の対象を導入するもの（1a）、存在を表す動詞“有”を使って比較の対象を導入するもの（1b）、やや書面語的な表現ではあるが、介詞“于”が形容詞の後につき、その目的語に比較の対象を導入するもの（1c）である。[1)]

1）　a. 张三比李四高。

　　b. 蛤有拳头那么大。

　　c. 江水已经高于路面。

この三つの比較級構文が対照的であるのは、主に以下の三つの点にある。一つ目に、真理条件的に異なる意味を持つことである。“比”構文と“于”構文では、比較の対象がそれぞれ持っている程度が異なるのに対し、“有”構文では、同程度のこともあり得る。(1) を例に取ると、a では張三の背の高さが必ず李四の背の高さを超えていなければいけないのに対し、b では、ヒキガエル

の大きさは拳と同じくらいか、それより大きくてもよい。一方、cでも、川の水の水位は路面の高さより必ず高くなければならない。

二つ目に、この三者は、異なる否定形式を持つ。即ち、“比”構文と“于”構文では、否定詞に“不”が用いられることが多く、出来事の実現の否定や共起した数量表現を否定する場合に限り、“没”が用いられる。一方、“有”構文では、必ず“没”を用いる。[2] また、否定された時の真理条件的意味が異なる。“比”構文と“于”構文では、比較される対象が同じ程度であってもよいのに対し、“有”構文では、異なっていなければならない。

2)　a. 张三不比李四坚强。　　(张三≦李四)

　　b. 张三没有李四那么坚强。　(张三＜李四)

　　c. 河北省的生活平均水平不高于全国平均水平。　(河北省≦全国)

三つ目に、それぞれの比較級構文が数量表現を伴うとき、数量表現の現れる位置とその表している意味に違いが観察される。即ち、“比”構文では、数量表現は形容詞の後に、“有”構文では比較の対象にとって代わる形で形容詞の前に現れる。意味的にも、前者は比較される対象が持つ程度間の差を表しているが、後者は主語名詞句の指すものが持つ程度の実際の数値を表し、もはや比較級構文とは言えなくなっている。ただし、数量表現が名詞を修飾する形では現れることができるが、[3] この場合、数量表現と名詞が一つの名詞句を形成し、やはり大体の実測値を比喩的に言い表すのに使われている。一方、“于”構文では、数量表現は形容詞の前にも後にも表れ、いずれの場合にも、比較の対象が持つ程度間の差を表す。

3)　a. 张三比李四高一厘米。(差)

　　b. 那个涵洞有2.5米高。(実測値)

　　c. 木板只有三张桌子宽。(大体の実測値)

　　d. 闸底高程高于滩面0.5米。(差)

　　e. 井口0.5米高于水平面。(差)

本稿では、三つの比較級構文を比較し、それぞれの真理関数的意味と構造の違いを明らかにする。以下、第2節で中国語の形容詞の意味を、第3節でそれ

ぞれの比較級構文の構造を明らかにし、第4節で中国語の比較級構文の意味論を定義する。なお、本稿で取り上げる形容詞は、“很”の修飾を受けることができるたり、比較級構文に現れることができたりするなど、形容詞の表す程度がまだ決定されていないもの、即ち性質形容詞に限り、状態形容詞や区別詞などは含まない。

2. 形容詞の意味論

本稿では、Creswell1976、Kamp1973における形容詞の定義と、その定義を踏まえた一連の研究に倣い、形容詞は個体を形容詞スケール上の程度と結びつけているとみなす。例えば、“高”という形容詞は、個体xを項にとり、高さのスケール上の程度dの集合を返す関数である。

4) $\lambda x \lambda d$ [高い (x)]

また、ほとんどの形容詞の表す特性は、絶対的なものではなく、常に何かを基準にした相対的なものである。従って、形容詞の意味には、比較の基準と基準に対する大小関係が含まれると考えられる。Kennedy & McNally 2005は、これを“pos”というゼロ形態素で表し、次のような機能を持つとした。この関数は、形容詞Gに対して、文脈Cでその形容詞に対して与えられる標準的な程度dが存在し、それが個体xが形容詞Gのスケール上で持つ程度であるということを述べている。

5) $[[\text{pos}]] = \lambda G \lambda x. \exists d\, [\text{standard}(d)(G)(C) \,\&\, G(d)(x)]$

一方、比較級構文の場合は、比較の基準は、文中に現れている。そこで、比較級形態素“-er”と比較の基準を導く前置詞“than”、比較の基準“d_c”を含めて以下のように定義される。

6) $[[\text{-er than } d_c]] = \lambda G \lambda x. \exists d\, [d > d_c \,\&\, G(d)(x)]$

2.1. 中国語の形容詞

中国語の性質形容詞は、龙果夫1958:147、丁声树等1961:22、朱德熙1982:104、房玉清1992:163、刘月华等2001:197など、以前から数多くの文法書

で指摘されているように、本来的に比較級である。

7)　这件衣服短，那件衣服长。

従って、比較級構文においては、形容詞が裸で現れる（8a）のに対し、主語名詞句の叙述であるときには、程度副詞を必要とする（9a）。

8)　a. 张三比李四帅。

　　b. * 张三比李四很帅。

9)　a. 张三很帅。

　　b. ? 张三帅。

この現象から見ると、pos に当たる形態素が、中国語では程度副詞の“很”であるように見えるが、“很＋形容詞”の意味は必ずしも“pos＋形容詞”の表す意味と一致するものではない。以下、簡単な状況を設定して“很＋形容詞”の真理関数的意味を明らかにする。

次は、“很高”という表現が使われる状況を提示したものである。

状況１：中国人男性の平均身長は 170cm である。話題に上がっているのは張三、李四、王五の３人で、それぞれ以下の身長である。 張三は 165cm、李四は 170cm、王五は 175cm 状況１における、以下の文の真理値 张三很高。＝假、李四很高。＝假、王五很高。＝真
状況２：バスケットボール選手の平均身長は 2m である。話題に上がっている選手は张三、李四、王五の３人で、それぞれ以下の身長である。 張三は 165cm、李四は 170cm、王五は 175cm 状況２における、以下の文の真理値 张三很高。＝假、李四很高。＝假、王五很高。＝假
状況３：13 歳の子供の平均身長は 160cm である。話題に上がっている子供は张三、李四、王五の３人で、それぞれ以下の身長である。 張三は 165cm、李四は 170cm、王五は 175cm 状況３における、以下の文の真理値 张三很高。＝真、李四很高。＝真、王五很高。＝真

以上から、“Ｘ很高”の意味は、Ｘの持つ背の高さがその特定の文脈におい

て期待される高さを超えていることであることがわかる。そこで、“很＋形容詞”の意味は以下のように定義される。[4)]

10) 形容詞Aの表すスケールにおいて、“X很A”の意味は、

$D_X > c$ （D_X は主語の持つ程度、c はその文脈において通常期待される程度）

2.2. 中国語の比較級構文

本稿で取り上げる3種類の比較級構文は、意味的には、“比”構文と“于”構文が似ており、“有”構文が他と異なる。

中国語には、形容詞の形態上で比較級を形態的に明示する手段がないため、“-er”にあたるものはゼロ形態素として存在するとみなすことができる。以下、それぞれの構文の意味を明らかにし、(6)の定義が当てはまるかどうかを検証する。

2.2.1. “比”構文

“比”構文“X比YA”は、Xの持つAという性質の程度が、Yの持つ程度より大きいことを示す。以下、“X比YA”の真となる状況の例を挙げる。

状況4：話題に上がっているのは2人で、それぞれ以下の身長である。 張三は165cm　　李四は170cm 状況4における、以下の文の真理値。 张三比李四高。＝假　　李四比张三高。＝真
状況5：話題に上がっているのは2人で、それぞれ以下の身長である。 張三は165cm　　李四は165cm 状況5における、以下の文の真理値。 张三比李四高。＝假　　李四比张三高。＝假

以上から、“比”構文の意味は以下のように定義できる。[5)]

11) 形容詞Aの表すスケールにおいて、“X比YA”の意味は、

$D_X > D_Y$ （D_X は主語の持つ程度、D_Y は比較の対象の持つ程度）

2.2.2. “有”構文

“有”構文の意味は、“比”構文ほど明確ではない。“X有Y(那么)A”は、Xの持つAという性質の程度が、Yの持つ程度以上であることを示す。以下に文脈を示す。

状況6：話題に上がっているのは2人で、それぞれ以下の身長である。 張三は165cm、李四は170cm 状況6における、以下の文の真理値。(真の時の条件については下参照) 张三有李四那么高。＝假、李四有张三那么高。＝真
状況7：話題に上がっているのは2人で、それぞれ以下の身長である。 張三は165cm、李四は165cm 状況7における、以下の文の真理値。 张三有李四那么高。＝真、李四有张三那么高。＝真

以上から、“有”構文の意味は以下のように定義できる。

12) 形容詞Aの表すスケールにおいて、“X有Y(那么)A”の意味は、

$D_X \geqq D_Y$　(D_Xは主語の持つ程度、D_Yは比較の対象の持つ程度)[6]

ただし、“X有Y(那么)A”は、使われる頻度はあまり高くない。例えば、状況6において、話者が二人の背の高さを明確に知っているとき、“李四有张三那么高”ではなく、“李四比张三高”を発話するのが普通である。つまり、この構文は、話者が比較される両者の差をはっきり知らないか、あるいは比喩的に印象を伝えるときに使われる。[7]

2.2.3. “于”構文

“于”構文“XA于Y”は、Xの持つAという性質の程度が、Yの持つ程度より大きいことを示す。定義上は、“比”構文と同じである。

13) 形容詞Aの表すスケールにおいて、“XA于Y”の意味は、

$D_X > D_Y$　(D_Xは主語の持つ程度、D_Yは比較の対象の持つ程度)

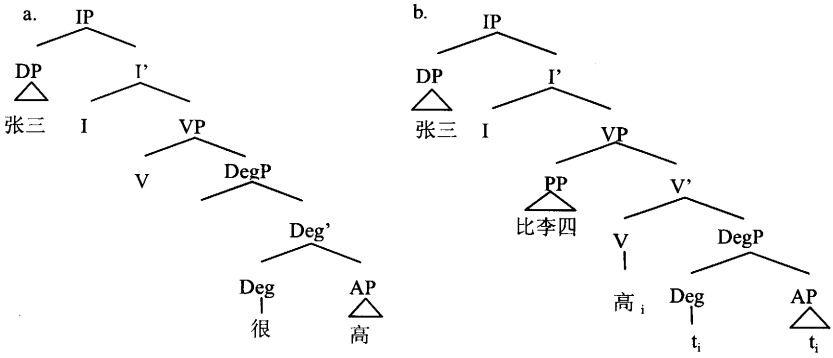
“于”構文は“比”構文よりも古い構文であり、現代では調査報告などの書面語に多く見られる。同じ意味を表す“于”構文と“比”構文が現代中国語に

共存しているのは、“于”が“比”に語彙的に取って代わられつつある、または“比”構文の使用頻度の上昇が“于”構文を駆逐しつつあるためと考えられる。[8] ただ、両者は統語的に大きく異なるため、数量表現の位置などに影響を及ぼす。次の節では、これら三つの構文の統語的構造の違いを述べる。

3. 比較級構文の構造

伊藤 2004、2005a では、Xiang 2003 の分析をもとに、形容詞の構造上の移動が絶対級と比較級の解釈の違いをもたらすと述べた。即ち、形容詞が形容詞句（AP）内に留まるなら絶対級を、動詞句（VP）内まで移動するなら比較級を表す。下に構造と移動を再掲する。

14)

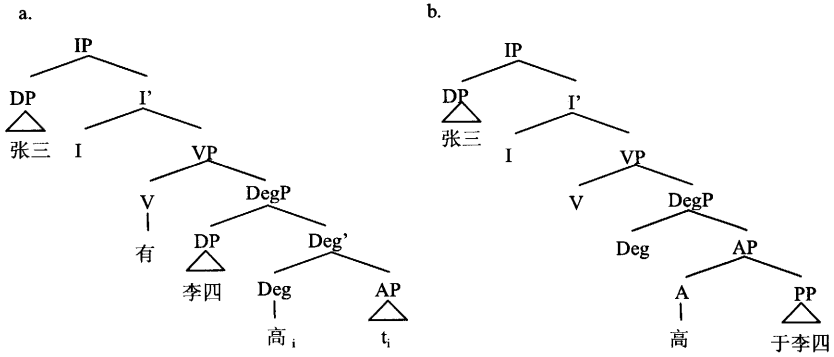


図（14a）において、形容詞“高”は AP の主要部であるが、その上にある DegP の主要部の位置に程度副詞“很”があるため、AP 主要部の位置に留まっている。一方、図（14b）では、DegP、VP の主要部の位置が空であるため、形容詞は VP 主要部の位置まで移動することができる。形容詞は、この位置まで移動すると、VP 指定部の位置にある“比李四”と一致を起こし、比較級の意味を帯びる。

本稿では、以上の分析を他の比較級構文にも修正して適用し、その統語構造を明らかにする。“有”構文の場合、図（15a）のように、形容詞は Deg 主要部

止まりとなる。その上のVPの主要部を“有”が占めているからである。形容詞はDegP指定部にある“李四”と一致を起こすが、中国語の場合、形態的な変化として表れず、また一致の対象が名詞句であるので、比較級の意味も得られない。[9] 一方、“于”構文の場合、図（15b）から分かるように、形容詞“高”の移動を妨げるものはない。だが、形容詞その補語である“于”介詞句は構造上結びつきが強く、形容詞はAP主要部の位置に留まる。

15)



以下、否定詞の位置と数量表現の位置という二つの観点から、この構造が正しいことを見る。

3.1.　否定詞の位置

冒頭に述べたように、比較級構文の否定形式は、それぞれ異なる。“比”構文では“比”の前に“不”が置かれ、“有”構文では“有”の前に“没”が置かれる。“于”構文では、形容詞の前に“不”が置かれる。

16)　a. 张三不比李四高。

　　b. 张三没有李四那么高。

　　c. 河北省的生活平均水平不高于全国平均水平。

否定詞は、I（厳密にはその中の否定詞投射主要部）にあるとするならば、この語順で否定詞が現れることは、（14b）と（15a,b）それぞれの図から自然に導

かれる。[10] また、以下のような文が非文であることも説明できる。

17) a. * 张三比李四不坚强。[11]

b. * 张三有李四没那么坚强。

c. * 河北省的生活平均水平高不于全国平均水平。

3.2 数量表現の位置

数量表現の位置は、始めに述べたように、“比”構文では形容詞の後に、“有”構文では形容詞の前に現れ、“于”構文では、両方の場合がある。そして、表す意味も“比”構文と“于”構文では比較の対象間の差を表すのに対し、“有”構文では物の実測値を表す。

18) a. 张三比李四高一厘米。(差)

b. 张三有一米七高。(実測値)

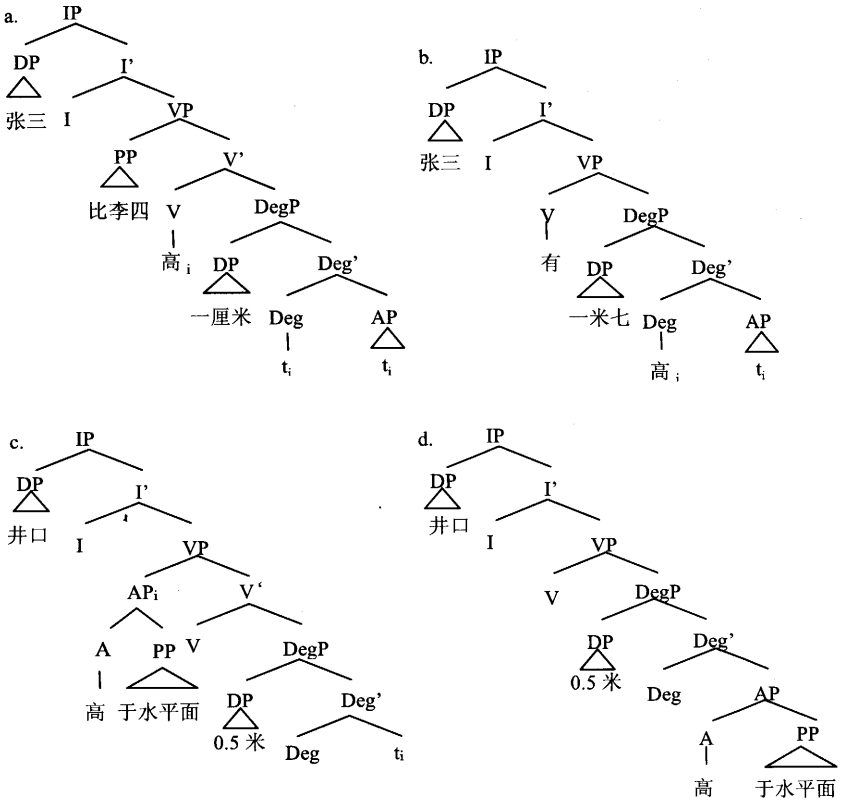
c. 木板有两张桌子宽。(大体の実測値)

d. 井口高于水平面 0.5 米。(差)

e. 井口 0.5 米高于水平面。(差)

数量表現は形容詞の程度を限定する働きをするのであるから、DegP 指定部の位置にある。表面上の語順の違いは、形容詞や形容詞句が移動することにより引き起こされると考えられる。以下、数量表現と移動の関係を図に示す。

19)



先に述べたように、“比”構文では、形容詞がVまで上昇し、“有”構文では、Degに留まり、“于”構文においては、全く移動をおこなわないとするならば、それぞれ（19a, b, d）の図のようになり、表面的な語順が正しく反映される。構造的にも、“比”構文では数量表現が形容詞の目的語であること、“有”構文ではむしろ修飾語として形容詞を限定していることがこの図から分かる。一方、(19c）では形容詞とその補語“于～”が一つの構成素APをなし、文前方に移動している。この移動は、他の比較級構文における形容詞の主要部移動と異な

り、主題化移動の一種と考えられる。

4. 比較級構文の意味論

2節では、形容詞は個体を形容詞スケール上の程度と結び付ける関数であること、中国語の形容詞構文には、英語に提案されるような“pos”を使ったものがないように見えることを指摘した。この節では、三つの比較級構文がそれぞれ異なる方法を使って比較の意味を表していることを明らかにする。以下、まず、Ito 2008 に基づき、形容詞をこの関数として翻訳する方法、即ち、程度化と程度の最大化を紹介する。

名詞句が表している個体を程度に変換するには、二つの手続きを踏んで行われる。一つ目は、個体 x を形容詞のスケールに関連付ける操作Πであり、もう一つの操作は、得られた程度の集合の最大値を取り出す操作 MAX である。[12)]

20) 程度化：$\Pi(\lambda x_{<e>}[A(x)]) \rightarrow \lambda x_{<e>}\lambda d_{<d>}[R_{tall}(d)(x)]$

21) 最大化：$MAX(\lambda d_{<d>}[R_A(d)(x)]) = \iota d[R_A(d)(x)]$

上記の二つの操作を経て、比較級構文における名詞句は、個体からその個体が持っている性質・状態の最大値に変換される。

4.1. 中国語形容詞の意味論と述語化

本稿では、中国語の形容詞は、語彙の段階ですでに程度化と最大化を経ていると提案する。例えば、“高”という形容詞は、Πによって個体の集合から、個体から程度への関数になり、さらに MAX により最大集合化される。

22) a. $\Pi(\lambda x_{<e>}[高(x)]) \rightarrow \lambda x_{<e>}\lambda d_{<d>}[R_{高}(d)(x)]$

b. $MAX(\lambda d_{<d>}[R_{高}(d)(x)]) \rightarrow \iota d[R_{高}(d)(x)]$

中国語において、裸の形容詞は述語になりにくいことは既に例文(9) で見た。これは、形容詞がすでに程度化と最大化を経て、「特定の程度」を表しているため、述語になれないからであると思われる。[13)]

9) a. 张三很帅

b. ? 张三帅。

23)　$\iota d\ [R_{帅}(d)(x)](张三)\ \rightarrow\ \times$

中国語の形容詞は、比較の意味を持つか、“很”、“比较”、“更”などの程度副詞を伴うことで述語になることができる。程度化と最大化を経た形容詞は、ゼロ比較級形態素または程度副詞の項になることで、述語として機能することができるからである。ゼロ比較級形態素または程度副詞は程度から程度の集合への関数であり、比較の基準が“比～”や文脈によって与えられると、真理値が定まる。従って、比較の基準がどのように算定されるかがこれらの表現の違いである。

24)　a. $MORE(\iota d\ [R_A(d)(x)])\ \rightarrow\ \lambda d[\iota d\ [R_A(d)(x)]>d]$

b. $\lambda d[\iota d\ [R_A(d)(x)]>d](c)\ \rightarrow\ \iota d\ [R_A(d)(x)]>c$

c:“比”で与えられる比較の基準

25)　a. $很(\iota d\ [R_A(d)(x)])\ \rightarrow\ \lambda d[\iota d\ [R_A(d)(x)]>d]$

b. $\lambda d[\iota d\ [R_A(d)(x)]>d](c)\ \rightarrow\ \iota d\ [R_A(d)(x)]>c$

c:文脈から分かる比較の基準

なお、補文では、形容詞が程度副詞を伴わなくとも述語を形成する。これは、主文が文脈を与え、比較の基準cを推理しやすくするためと思われる。

26)　干旱和唾手可得的有毒农药是［中国农民自杀率<u>高</u>］的主要原因。

27)　研究表明［单身女性自杀率<u>高</u>］。

28)　我喜欢［他<u>老实</u>］。

4.2.　単独形容詞の比較

中国語の形容詞は、程度化と最大化を経て、特定の程度を指している。従って、その状態で主語や介詞の目的語になることができる。下の例では、“高”と“矮”がそれぞれ“好”のスケール上の程度となり、比較級構文を成り立たせている。日本語や英語において、名詞化の接辞が必須であるのと対照をなす。

29)　高比矮好。

30)　$\iota d\ [R_{好}(d)(\iota d\ [R_{高}(d)(x)])]\ >\ \iota d\ [R_{好}(d)(\iota d\ [R_{矮}(d)(x)])]$

伊藤2005bでは、中国語の名詞、動詞、形容詞はすべて本来非可算的な特質

を共有していると述べた。この非可算的な領域は、その領域全体が一つの個体として扱われる。中国語の動詞や形容詞が裸のままで主語や目的語など名詞の位置に現れるのは、もともとの意味タイプが名詞と同じだからである。名詞は個体について非可算的な領域を成しているが、形容詞は程度について非可算的な領域を成していると考えられる。Dixon 2004、Wetzer1996 などで、動詞的な形容詞を持つ言語と、名詞的な形容詞を持つ言語の類型があげられているが、中国語は、後者に属すため、形容詞は <d> タイプであり、述語として機能するためには、副詞の補助か、V 主要部への統語的移動という現象が見られるのだと思われる。

4. 3. 比較級構文の意味論

中国語の三つの比較級構文は、それぞれ統語構造上で異なる動きをすることは 3 節で述べた。統語構造の違いに伴い、意味論もそれぞれ異なっている。“比”構文では、形容詞は VP 指定部位置にある“比～”との一致により、比較級化する。一方、“有”構文では、形容詞は DegP 指定部位置にある名詞句と一致するだけで、比較級化することはない。だが、この Deg 位置に形容詞が移動することで、何らかの意味の変化があることが予想される。本稿では、ここに Kennedy & McNally 2005 の提案した“pos”、即ち絶対級化の形態素があり、形容詞の絶対級化を行っていると提案する。2 節では、中国語の形容詞に絶対級と言えるものはないと述べたが、形容詞が Deg の位置にとどまる限りにおいて、“pos”の操作を受ける。ただし、この操作は、中国語の場合、一定の条件を伴う。即ち、必ず文中に比較の対象が現れていることが条件である。従って、例えば、“张三有高”ということで絶対級を表すことはできない。一方、“于”構文では、介詞補語の“于”が比較級化の働きをする。この過程は、形容詞の項を増やす操作であり、結果補語でしばしば観察される働きである。“于”が補語として働いているとみなすなら、増やされる項がタイプ <d> のものであるという点で特異ではあるが、予想される働きの範囲内であると言える。

31) 张三比李四高。

a. 高 → ιd [$R_{高}$(d)(x)]

b. MORE(ιd [$R_{高}$(d)(x)]) → λd[ιd [$R_{高}$(d)(x)] > d]

c. λd[ιd [$R_{高}$(d)(x)] > d](ιd [$R_{高}$(d)(李四)])

→ ιd [$R_{高}$(d)(x)] > ιd [$R_{高}$(d)(李四)]

d. λx[ιd [$R_{高}$(d)(x)] > ιd[$R_{高}$(d)(李四)]](张三)

→ ιd [$R_{高}$(d)(张三)] > ιd [$R_{高}$(d)(李四)]

32) 蛤有拳头那么大。

a. 大 → ιd [$R_{大}$(d)(x)]

b. [[pos]](ιd [$R_{大}$(d)(x)]) → λd[ιd [$R_{大}$(d)(x)] ≧ d]

c. λd[ιd [$R_{大}$(d)(x)] ≧ d](ιd [$R_{大}$(d)(拳头)])

→ ιd [$R_{大}$(d)(x)] ≧ ιd [$R_{大}$(d)(拳头)]

d. λx[ιd [R 大(d)(x)] ≧ ιd [$R_{大}$(d)(拳头)]](蛤)

→ ιd [$R_{大}$(d)(蛤)] ≧ ιd [$R_{大}$(d)(拳头)]

33) 江水已经高于路面。

a. 高 →ιd [$R_{高}$(d)(x)]

b. [[于]](ιd [$R_{高}$(d)(x)]) → λd[ιd [$R_{高}$(d)(x)] > d]

c. λd[ιd [$R_{高}$(d)(x)] > d](ιd [$R_{高}$(d)(路面)])

→ ιd [$R_{高}$(d)(x)] > ιd [$R_{高}$(d)(路面)]

d. λx[ιd [$R_{高}$(d)(x)] > ιd [$R_{高}$(d)(路面)]](江水)

→ ιd [$R_{高}$(d)(江水)] > ιd [$R_{高}$(d)(路面)]

4.4. 比較級否定形式

比較級の否定形式、特に“不比”と“没有”の違いについては、論理的な意味からの違いを説明したものに、刘月华等1983、語用論的な意味の違いを説明したものに、相原茂1992、徐燕青1996、刘焱2004などがある。本稿では、語用論的な意味については論じない。語用論的な意味は、比較級構文の本質的な意味ではなく、これらの構文の表す意味がスケールに言及するために生じる副次的な意味である。例えば、A > Bであることを話者が知っていて、かつ、そ

の話者が誠実であるとき、A＞Bつまり“比”構文を用いて発話し、A≧Bつまり“有”構文は用いない。A≧Bという形式をわざわざ用いるときには、話者が実際によく知らないか、婉曲的／修辞法的な言い方をしようとしているときであり、特別なニュアンスを伴うのは当然である。これと同じことが否定形式にも当てはまる。“比”構文と“于”構文の否定形式では、比較される対象A、Bの程度d_A、d_Bについて、$d_A = d_B$のときと$d_A < d_B$のときの二つの意味があるように見えるが、これはスケール上の大小関係の否定は必然的にこのようになってしまうからである。スケールに基づいた意味であるので、会話の公理と相まって、語用論的な意味が生じてくる。逆に、“有”構文の否定形式は$d_A < d_B$となるため、曖昧さがなくなる。“比”構文の否定として“没有～”が挙げられることが多いのは、このためである。以下、それぞれの比較級構文の否定形式の意味を示す。

34) a. 张三不比李四坚强。

b. $\iota d\ [R_{高}(d)(张三)] \leqq \iota d\ [R_{高}(d)(李四)]$

35) a. 张三没有李四坚强。

b. $\iota d\ [R_{高}(d)(张三)] < \iota d\ [R_{高}(d)(李四)]$

36) a. 河北省住房价格的平均水平不高于全国平均水平。

b. $\iota d\ [R_{高}(d)(河北省平均水平)] \leqq \iota d\ [R_{高}(d)(全国平均水平)]$

5. まとめ

本稿では、中国語の形容詞の意味を明らかにし、三つの比較級構文それぞれの統語的構造と、意味の派生を見た。まず、統語的な違いからまとめると、それぞれの構文において、形容詞の移動状況が異なっている。“比”構文では形容詞のVへの統語的移動があり、“有”構文ではDegへの移動、“于”構文では移動はなく、あるのは形容詞句の主題化移動である。意味的については、それぞれの真理関数的意味を定め、“比”構文では、比較級化が、“有”構文では制限付の絶対級化が、“于”構文では、形容詞の項を増やす働きがそれぞれの比較級構文の意味を形成することを明らかにした。

注

* 本研究は、平成18年～20年度の若手研究（B）課題番号18720107、研究課題名「形容詞：絶対級と比較級の類型論」の助成を受けて行われた研究成果の一部である。なお、本稿の初稿は2008年度第3回日本中国語学会関東支部例会（お茶の水女子大学）で発表している。発表の際には有益な意見を聴衆のみなさんから頂いた。ここに心から感謝申し上げます。

1) “有”を使った構文は、许国萍2007で“平比”に分類されているように、比較よりは同等を表すと考えられることが多い。本稿では、これの否定形は明らかに比較を表しているため、他のものとあわせて論じる。なお、他にも、比較を表す表現には、同程度を表す“跟～一样”、副詞の“更”、“还”などを用いるもの、形容詞に“过”をつけるもの、“不如”“不像”などがある（陈王君、周小兵2005）が、本稿では考察しない。また、“比”を動詞として用いた比較表現も多数ある（胡斌彬2005）が、本稿では比較級構文としてすでに文法化されている介詞の“比”についてのみ論じ、動詞の“比”については論じない。

2) 许国萍2007:76-77参照。

3) 陆俭明1989の指摘。

4) 刘焱2004も“很”を始めとする“挺、十分、非常、太”などの程度副詞が比較の意味を持つと述べている。これは、一般的に理解される「比較」の意味とは異なっているが、形容詞というものが、文脈から予測される程度という基準との比較の意味が常に含まれている点で本来的に「比較」なのである。

5) 例外として、“张三比书架还高。”や“他的嘴比刀还快。”のように、比喩的な比較を話す場合には、この限りではない。仮に話者のイメージの中には本棚やナイフの標準的大きさ、鋭さがイメージされているとしても、人間がそれより背が高いとか、ましてや口が鋭いと言うのは現実に意味をなさない。これらの比喩的な比較の表現については史佩信2008に記述があるが、これらの構文では、“书架”“刀”が特定できる個体を指していず、その事物の総称として使われている。従って、D_Yを具体的数値として決定することそのものができない。そこで、これらの名詞句の外延が問題なのではなく、内包から特性が取り出されて利用されており、本稿の提案よりもう一段複雑な内包論理を用いた分析が必要

になると思われる。

6) 相原 1992、吴福祥 2004、余敏 2008 は、“X 没有 YA”の形式を考察し、この形式は、“X 不 A”かつ“Y 不 A”を前提としており、聞き手の側が真だと思っている命題に対する反駁として使われること、その証拠に“上海热闹还是东京热闹?”“今天比昨天冷吗?”などの疑問文の答えとしてこの形式が不適切なことなどを挙げている。だが、これらの研究者の指摘する意味は、語用論的に派生して生まれた意味であり、文の真理条件的な意味ではない。例えば、反駁の意味合いを持つことが多いのは、多義的表現を使って婉曲的に相手の考えを否定したいために使われるのであり、疑問文の答えで使われないのは、単一の答えが求められていないときに多義的な表現で答えるのは会話の公理に反することから副次的に生じた制約である。

7) 张豫峰 1998、许国萍 2007 にも同様の指摘が見える。

8) “比”構文の由来に関する二つの学説(“结构扩展论”と“词汇替代论”)についてのまとめと批判は、史佩信・杨玉玲・韩永利 2006 を参照。

9) Ito 2008 で中国語と同じタイプの形容詞システムを持つと紹介した Qiang 語では、実際に一致として現れる。Qiang 語の例については、LaPolla and Huang 2004 参照。

10) “不”をこの位置に生成すると、“很”との語順関係において、問題が生じる。つまり、(14a) の図からは“不很好”という語順しか得られないが、“很不好”という語順が存在する。これについては、“很”が状態性の強い述語であれば、たいていのものは項に取ることができるため、否定詞+形容詞を項に取れるためであると思われる。

11) 雅虎サイトの検索では、“女人天生比男人不坚强”という例が見られた。これは、“女人天生比男人坚强”の否定であるというよりは、“不坚强”という形容詞として認識されていると思われる。

12) 最大化の定義は、Rullmann 1995 による。

13) Huang 2006 では、同様の現象を「中国語の形容詞はタイプ <e>、つまり、個体を表すため、述語に用いられない」と説明した。それに対し、本稿では中国語の形容詞をタイプ <d> とみなしている。本稿の主張と存在論的に異なっている

が、形容詞の外延を単一物と考える点では共通している。Huang 2006の問題点は、比較文において形容詞が裸で出現することを説明できないという点があり、この点において、形容詞をタイプ <d> と説明したほうがより適切であると思われる。

【参考文献】

陈王君、周小兵 2005〈比较句语法项目的选取和排序〉语言文字学 第6期。

丁声树等 1961《现代汉语语法讲话》北京：商务印书馆。

胡斌彬 2005〈现代汉语“比”字句变体的语用分析〉乐山师范学院学报第20卷第2期，70-72。

黄晓惠 1992〈现代汉语差比格式的来源及演变〉中国语文第3期。

刘丹青 2003〈差比句的调查框架与研究思路〉见：戴庆厦、顾阳主编《现代语言学理论与中国少数民族语言》北京：民族出版社，1-22。

刘焱 2004《现代汉语比较范畴的语义认知基础》上海：学林出版社。

刘月华•潘文娱•故韡2001《实用现代汉语语法〈增订版〉》北京：商务印书馆。

龙果夫 1958《现代汉语语法研究》北京：科学出版社。

陆俭明 1965〈“还”和“更”〉《语言学论丛》第6辑。

陆俭明 1989〈说量度形容词〉语言教学与研究 第3期。

吕叔湘 1980《现代汉语八百词》北京：商务印书馆。

史佩信 2008〈也谈比较类“比”字句与比拟类“比”字句〉，见：齐沪杨（主编）《现代汉语虚词研究与对外汉语教学第二辑》，407-417。

史佩信・杨玉玲1韩永利 2006〈试论比字句的形成与其与先秦两汉有关句式的渊源关系〉语言文字学 2006年第6期，64-71。

吴福祥 2004《试说“X不比Y・Z”的语用功能》中国语文第3期，222-231。

相原茂 1992〈汉语比较句的两种否定形式〉语言教学与研究 1992年第3期。

谢仁发 2006〈现代汉语歧义句式“X不比Y・Z”的语义类型〉语文研究，23-28。

徐燕青 1996〈“不比”型比较句的语义类型〉语言教学与研究 1996年第2期，79-95。

许国萍 2007《现代汉语差比范畴研究》上海：学林出版社。

余敏 2008〈“比”字句的否定形式“不比”的语用分析〉重庆三峡学院学报第24卷，

77-79。

张国光 1998〈比较句中比较词的更替和比字句〉贵州师范大学学报（社会科学版）第2期，77-78。

张豫峰 1998〈表比较的“有”字句〉语文研究 1998 年第 4 期，12-17。

邹韶华 1991〈“比”字句的积极性特征〉《语法研究和探索六》，217-229。

Cresswell, M. J. 1977. "The Semantics of Degree." In Partee B. H. (ed.) *Montague Grammar*, 261-292, Academic Press, N.Y.

Dixon , R. M. W. 2004. "Adjective Classes in Typological Perspective." In R. M. W. Dixon and A. -Y. Aikhenvald eds., *Adjective Classes*, 1-49. Oxford University Press.

Huang, S.Z. 2006. "Property Theory, Adjectives, and Modification in Chinese." *Journal of East Asian Linguistics* 15:343-369.

Ito, Satomi. 2008 "Typology of Comparatives", Paper presented at PACLIC22 (Proceedings of the 22nd Pacific Asia Conference on Language, Information, and Computation), 197-206.

Kamp, J. A. W. 1975. "Two theories about adjectives." In Keenan, E. (ed.) *Formal Semantics of Natural Language*, 123-155.

Kennedy & McNally 2005 "Scale structure, degree modification, and the semantics of gradable predicates." *Language*, Vol.81, No.2, 345-381.

LaPolla, R. J. and C. Huang. 2004. Adjectives in Qiang. In R. M. W. Dixon and A. Y. Aikhenvald eds., *Adjective Classes*, pp306-322. Oxford University Press.

Rullmann, H. 1995. *Maximality in the Semantics of WH–Constructions*. Ph.D. thesis, University of Massachusetts.

Wetzer, H. 1996. *The Typology of Adjective Predication*. Mouton de Gruyter.

Xiang, M. 2003 "Phrasal comparatives and functional analysis." Paper presented at NACCL-15.

伊藤さとみ 2004「計量句を伴う形容詞述語文」KLS24 (Proceedings of the 24th Annual Meeting), 187-195。

伊藤さとみ 2005a「現代中国語における形容詞述語文」日本東洋文化論集（琉球大学法文学部紀要）第 11 号、47-65。

伊藤さとみ 2005b『現代中国語における単数／複数／質料の概念』東京：好文出版。

（いとう　さとみ）